



2013年7月16日
 発行：幸福の科学出版株式会社

「中日新聞は“中国の日本本社”」

独占スクープ—中日新聞・小出社長 守護霊が語る



「日本は中国に呑み込まれるほづがいつ」

中部圏で大きなシェアを占め、系列の東京新聞その他を含めると毎日新聞を抜いて日本3位の部数を持つ「中日新聞」。だが、その極端に左寄りの報道姿勢は選挙報道にも表れ、各マスコミが幸福実現党を公平に扱ってきいているのと対照的に、露骨な「幸福実現党外し」をずっと続けている。国民の「知る権利」を守るべき新聞社が、このような偏向報道を続ける理由は何か？ そこで、大川隆法・幸福の科学グループ創始者兼総裁は7月15日、小出宣昭・中日新聞社長の守護霊を呼び、その本心と思想信条を聞いた。



中日新聞愛知県版では連日、各候補者を写真入りで紹介しているが、幸福実現党の中根裕美候補は1行のみ。右上は小出宣昭社長(中日新聞webより)。

愛知選挙区立候補者
 (三…10)届け出順

本村 伸子	40 党現帯任委員	共新
宇田 幸生	40 弁護士	減新
中根 裕美	39 幸福実現党員	諸新
伊藤 善規	64 元長久手町議	社新
葉師 寺道代	49 医師	み新
酒井 庸行	61 元県議	自新
身玉山 宗三郎	40 神戸大院長	諸新
平山 誠	61 党国対委員長	ミ現
近藤 浩	52 元衆議院議員	維新
大塚 耕平	53 元厚生労働副大臣	民現

「マルクスはマスコミの神様」

小出社長の守護霊は、開口一番「俺はエリート中のエリートなんだ」「お前らみたいなウジ虫みたいな急に湧いたやつらが、偉そうに物を言うから腹が立つんだ」と、幸福実現党に対して敵意を丸出しにした。なぜそれほど敵意を持つのかを聞いていくと、小出氏の思想信条が、次第に明らかになった。

「レーニンや毛沢東は偉すぎて、評価できない」「マルクスは神様。近代に生まれたキリストだ。マスコミの神様だ」「マルクス・レーニン主義で天下布武をして朝日を乗り越えたい」
 このように小出社長守護霊は共産主義思想に固まっています、これが中

「幸福実現党は中国を敵視するから、望ましくない」
 小出社長の守護霊は、将来的に日本が中国に呑み込まれる方向でいくと見て、反原発、反オスプレイなどと見て、中日新聞の論調を統一していることを明かした。その上で、社名の「中日新聞」の意味について、「朝日新聞が北朝鮮と日本の架け橋だけど、ウチは中国と日本の架け橋。中国の日本本社ですよ」とまで言い切った。

このような報道スタンスに立っているため、「中国を敵視する政党は、日本の将来に対して望ましくない」として、幸福実現党を無視する報道し

ていることも暗に認めた。だが、幸福実現党は中国や北朝鮮を敵視しているわけではなく、世界標準から見て中国が自由のない国であり、時代遅れの帝国主義・植民地支配をしようとしている国であると指摘し、朝日新聞はじめ多くのマスコミもその影響を受けて報道姿勢を変えてきている。

中日新聞は、時代と世界の動きを見抜かなければ、気づいてみると「そして、誰も読まなくなった」ということになるのではないか。

「ザ・リバティweb」(無料記事)でもレポートが読めます。⇒ the-liberty.com

「中日新聞偏向報道の霊的原因を探る—小出社長・スピリチュアル診断—」の映像は、幸福の科学の支部・精舎で7月16日から、どなたでも拝聴できます。さらに7月下旬には全国書店で緊急発刊されます。